

女子中高生の理系進路選択支援プログラム「未来の医療を支えるのはあなた」における薬学部での参加体験型実習の実施

○井上 みち子<sup>1</sup>, 本多 静子<sup>1</sup>, 武井 佐和子<sup>1</sup>, 影山 美穂<sup>1</sup>, 大野 尚仁<sup>1</sup>, 深見 希代子<sup>2</sup>, 岡田 みどり<sup>3</sup>(<sup>1</sup>東京薬大薬, <sup>2</sup>東京薬大生命, <sup>3</sup>東京女子医大医)

【目的】東京薬科大学薬学部では、東京女子医大による女子中高生の理系進路選択支援プログラム「未来の医療を支えるのはあなた」において、理系進路の中でも薬学に対する理解を深め進路選択の一助となることを意図して、女子中・高生を対象に参加体験型実習を立案し実施した。また、この取り組みに対して、事前・事後のアンケート調査を行い、参加体験型学習の有効性について検討を加えた。

【方法】プログラムは、薬学部での模擬体験学習を意図したものとし、見学ではなく全員が参加できる実習となるように計画した。実習項目として取り上げたのは、1. 手洗い実習、2. 水剤調製実習、3. 模擬患者参加型服薬支援実習の3つである。参加者は、中学2年生から高校2年生まで17名(中学生8名、高校生9名)であった。【結果および考察】水剤調製実習では、中高で学習する濃度計算の理解は不十分(30.8%)であったが、液体の秤量手技は事前説明だけで理解を得られた。事前アンケートで、薬剤師業務は「調剤」とであると挙げていた参加者は、76%であったが、終了後には57%となった。服薬説明の印象について「簡単ではない」と答えた割合は、53%から終了後76%となり、模擬患者参加型服薬支援実習を行うことで、薬剤師業務の多様性と難しさを体感したと考えられる。多くの参加者は、今回の実習参加を肯定的に受け止めていたが、参加前後で大きな意識の変化は認められなかった。これは、今回の参加者が、もともと理系進路に関心が高い生徒であったこと、また、参加当日までどのような実習に参加するのか知らないまま参加したため、事後アンケート記入時までには十分な自己振り返りができなかったことも一因ではないかと思われた。今後、同様の実習を実施する際は、学年を考慮したグループ編成や、事前の資料配布などが必要であると考えられる。